

学びのドリームプラン

第5学年2組 算数科

単元名：考える力をのばそう きまりを見つけて
～図、表、式を使って考える～

指導者 日南 隆彦

児童の願い

様々な解決方法に挑戦し、自らの言葉で解説や説明を記述したい。



ゴール

図、表、式の良さを体験的に感じることで後の問題解決で意欲的に活用しようとするこにかなげる。

学びのモニタリングの視点(育成したい資質・能力)

	A	B
【主体性】	2つの数量の変化の仕方について、対応する数値を表に表すなどして問題を解決しようとしている。	2つの数量の変化の仕方について、対応する数値を図に表すなどして楽しく活動をしている。
【思考力】	対応する数値を表した表から、対応の規則性を式に表し、その式の意味を説明している。	対応する数値を表した図から、対応の規則性を表に表し、その表の意味を説明している。
【自己理解】	きまりや式を生活の場面にも活用したり、新たな問題につくりかえたりして、今後の学習に生かそうとしている。	きまりや式を生活の場面にも活用し、今後の学習に生かそうとしている。

本単元で付けたい力

- ・変化する2つの数量の関係を表や式に表すことを通して、数量関係や規則性を見つける能力を伸ばす。

「課題発見・解決学習」の過程(全2時間)

	学 習 活 動	育成したい資質・能力
1	課題の設定 ○正方形の作り方をとらえ、題意を正確にとらえる。 ・正方形の性質を振り返らせ、同じ長さの棒をつかうことなども確認する。 ○正方形の数が30個のときの棒の数を求めることが問題であることを確認する。 ・「数が少ない場合で考える」、「きまりに着目する」といった見通しを全体で確認するようにする。	主体性
	情報の収集 ○正方形が5個のときの棒の数を工夫して求める。 ・棒の並び方が、1本とコの字の形に並んでいることに気付く。 ・表で棒がいくつずつ増えるか考える。	思考力
	整理・分析 ○発表された考えを基に、棒の増え方や並び方のきまりをとらえる。 ・表や図を使ってどのように考えたか明らかにする。 ○自分で考えた方法できまりを見つけて問題を解決する。 ・それぞれの考え方の似ている点について話し合う。 ・それぞれの考え方のよいところを見つける。	
	【本時】	

	学 習 活 動	育成したい 資質・能力
2	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>○きまりを使う良さを価値付ける。 ・きまりを使うと、正方形の数が大きくなっても棒の数を求められる。</p> <p>振り返り</p> <p>○振り返りをする。 ・式の機能やよさを児童の言葉を基にしてまとめる。 ・式は2つの量の関係を表している。 ・式に表すと、数が大きくなっても答えが簡単に求められる。</p> <p>学びのモニタリング</p> <p>○図、表、式の機能やよさを体験的に感じることで、以後の問題解決で意欲的に活用しようとするにつなげることができる。</p>	自己理解